



介護保険を

立て直す！

高齢になっても
安心して暮らすために・・・

介護保険制度が施行されて25年目。3年ごとの改定の度に「負担増と給付抑制」が繰り返されてきた介護保険制度の不備を、院内集会等で厚生労働省に改善を求めてきました。2024年の改定では訪問介護の基本報酬が引き下げになり、介護事業者の倒産は過去最多。このままでは「制度があってもサービスなし」の未来がやってきます。

2025年は団塊の世代全員が後期高齢者になります。超高齢社会を支える重要な制度として介護保険を立て直す4つの提案を国会議員に問います！

参加無料

日時：2025年7月12日(土) 14:00~16:30

会場：北沢タウンホール 3F ミーティングルーム 及び オンライン

お申し込み：フォーム →→ QRコードから →→

or メール<kaigo.exco@gmail.com>

①お名前 ②所属 ③連絡先電話番号をご明記ください。



第1部

私たちの提言 ～院内集会を振り返って～

第2部

私たちの提言は実現するのか？パネルディスカッション

<パネリスト>



早稲田ゆきさん
(衆議院議員・立憲民主党)



宗野創さん
(衆議院議員・立憲民主党)



宮本徹さん
(前衆議院議員・共産党)

小川厚子さん(訪問介護・NPO法人
ワーカーズ・コレクティブたすけあい磯子 理事長)

守屋哲さん(通所介護・NPO法人ACTあやとり)

辻本きく夫さん(ケアマネジャー・特定非営利活動法人
ソーシャルケア清和会 理事長)

佐々木元子さん(認知症の人と家族の会)



コーディネーター
小竹雅子さん
(オフィスハスカップ)

介護を立て直す4つの提案！

1. 訪問介護員の人材確保は待ったなし
2. 基本報酬を上げない限り、介護に未来はない
3. 要介護1・2の総合事業移行に反対！
4. 利用者負担の引き上げに反対！



介護の崩壊を
させない
実行委員会

提案項目

1. 訪問介護員の人材確保は待ったなし

訪問介護員の仕事は、超高齢社会の中、認知症になっても住み慣れた愛着のある自宅で暮らし続けることを可能にし、利用者のいのちを支えるなくてはならない専門職であり、今後の人材確保のために、訪問介護員の社会的役割と意義にふさわしい基本報酬で待遇してください。さらに、その価値を発信するため、できる限りのイメージアップ戦略を推し進め、国民に向けて効果的に発信してください。

2. 基本報酬を上げない限り、介護に未来はない

介護保険制度の開始以来、基本報酬がほとんど上がらない中、最低賃金は上昇を続けています。2024年上半期「介護事業者（老人福祉・介護事業）」の倒産は最多件数を更新しています。事業所の倒産により、代替サービスの確保ができない場合には、ケアプランにそったサービス提供が困難となり、利用者、家族の生活に大きな支障をきたします。また、大規模事業所による寡占が進むことにより、利用者の選択肢を狭め、多様なニーズへの柔軟な対応が損なわれることをも懸念します。

地域包括ケアシステムの根幹が揺らぐことのないよう、基本報酬を引き上げてください。

3. 要介護1・2の総合事業移行に反対

総合事業は多くの自治体で、受け皿もない、担い手もないのが現状です。要介護1・2を総合事業に移行すれば、介護が成り立たなくなることは明らかです。

総合事業そのものを見直し、要支援者も含めた在宅サービスのあり方を再検討すべきです。

4. 利用者負担の引き上げに反対

保険制度にあつて、介護保険料を払い続けていながらサービスが必要な時に、生活苦から使えないということにならないように、また、誰でも介護認定を受け、安心して介護サービスが受けられるように、利用料の負担割合の引き上げやケアプランの有料化といった利用者負担の増加はすべきではありません。

介護の崩壊を
させない
実行委員会

構成団体：

- ・NPO法人アビリティクラブたすけあい（ACT）
- ・NPO法人ACT・人とまちづくり
- ・生活クラブ運動グループ・横浜ユニット連絡会
- ・神奈川ネットワーク運動

- ・ACT たすけあいワーカーズ・コレクティブ連合
- ・市民連帯経済つながるかながわ
- ・東京・生活者ネットワーク
- ・ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン